

最終到達度確認試験問題

2022/7/15

松岡 久和

第1問 以下の事実を読んで、下記の問題に答えなさい。(50点)

(事実)

1. Yは、建設用の重機をレンタルする会社である。2022年4月1日、Yは、建設業者Aに本件パワーショベル甲(中古でも1500万円相当)を月額30万円(月頭払)で1年間貸して、30万円の支払と引換えにAに引き渡した。
2. 2022年5月30日、甲が故障した。Aは、Yに修理または代替機の提供を求めたが、Yは、「甲は整備済であることを確認して引き渡した。使用中の故障については借主が自ら修理してYに返還しなければならない。」という契約条項を理由に、請求を拒絶した。
3. 同日、Aは仕方がないので、重機の修理業者Xに甲の修理を依頼した。6月3日、修理が終わり、甲の機能は回復した。故障部品の取替え・修理工賃等が50万円かかったが、Aが現場で必要だということで、Xは、月末払として甲をAに引き渡した。
4. その直後、Aは事業不振に陥って事実上倒産し、Xに修理代金を支払っていない。また、6月分の甲の賃料が支払われなかったので、同月30日、Yの従業員が、甲をAの現場から回収した。同日、Yは、甲を中古重機を扱う海外業者Bに1500万円で売却して引き渡した。現在は同年7月15日である。甲はすでに海外に持ち出されて現在の所在は確認できない。

問 Xは、Yに対して、50万円の支払を求めている。この請求は何に基づくものであるかを説明したうえで、その請求の当否を論じなさい。

第2問 以下の事実を読んで、下記の問題に答えなさい。(50点)

(事実)

1. X₁は、自宅である本件建物の1階部分の一部を店舗として、調剤薬局「くすし」(屋号)を親から引き継いで長年営業していた。2019年4月1日、X₁は、節税を目的に、「くすし」を社名とした株式会社X₂を設立し、薬局営業をX₂に引き継いだ。X₂の代表取締役はX₁、専務取締役はX₁の配偶者のA、監査役は息子のBである。X₂の株式は非公開とされ、X₁ら家族とX₁らの親戚の数名が株主であった。AもBも自分の仕事を持っていたので、X₂の営業は、もっぱらX₁のみが担当した。
2. 2020年5月10日、本件建物は、火災で焼失した。消防によれば、火災の原因は、本件建物に設置されていたLPガスのガスボンベから室内にガスを引き込む本件高圧ゴムホースが劣化してガスが漏れ、噴出したガスに気中放電により着火した、というものであった。
3. このガス供給設備は、X₁がYとの契約により設置したものであり、その所有権は、Yにガスボンベ等を供給しているZが有しており、ZがYに無償で貸し出し、さらにYからX₁に無償で貸し出されていたものであった。本件高圧ゴムホースは、着脱が容易なものであった。ガスの供給契約では、Yの従業員(実際の担当はD)が、毎月ガスの使用量をチェックし、ガスが不足すれば代わりのガスボンベに入れ替え、その際に、本件高圧ゴムホースを着脱する、ということになっていた。本件高圧ゴムホースは、海外のE社製品であり、その品質に問題があったのかどうかは、今のところ、わからない。また、その劣化がDの目視等で容易に判断できたかどうかは明確ではない。
4. 現在時点は2024年7月1日とする。X₁は、本件建物の相当価格2500万円と慰謝料1000万円を、X₂は、薬局の営業が再開するまでの約1年間の売上げ相当額1440万円を、YまたはZに請求したが、YもZも応じない。

問 X₁らは、YやZに対して、損害賠償を請求することができるか。YおよびZからの反論を想定して、検討しなさい。なお、失火責任法の適用は検討しなくてよいものとする。